

# 就職活動生の内省を促す 対話カードの開発

2023年度活動報告書

青山・臼井・奥井・瀬戸・三國

# 目次

## 1. 研究成果

(1) はじめにー研究背景ー

(2) 2023年度研究成果

(3) インタビュー

(4) 2024年度の展望

## 2. 2023年度の活動報告

株式会社パーソル総合研究所との契約

合同会社Dチーム設立

京都芸術大学紀要27号 論文投稿

助成金申請

# 1. 研究成果

(1)はじめに—研究背景—

# 研究背景

日本において、若者の入社後3年以内での早期離職が社会問題となっている。原因の一つに、就職決定時に内定先に満足できていない「不本意就職」がある(石黒、2017)。「不本意就職」学生は「本意就職」学生に比べると後の離転職経験が多く(高崎、2016)、早期離職は若者のキャリア形成を妨げると言える(前田、2010)。しかし現状は有効な解決策に乏しい。

2021年度、我々は、就職活動生の対話と内省を促すため、一般的にコミュニケーションツールとして有効とされる対話カードに着目し、希望通りの就職決定ができない不本意就職を減らすことを期待して、デザイン思考のプロセスに則って就職活動生の内省を促す対話カードの開発をした(三國、2022)。効果検証では開発したカードを用い筆者らが聴き手となり、被験者の大多数で内省の深まりが見られた。社会実装のためには、研究員以外が聴き手となっても有効性を発揮できることが必要であるが、本対話カードは研究員がその使用方法を理解していることを前提としており、研究員以外が聴き手になることを想定していない。

就職活動生が他者の就職活動について聴くと、自分とは異なる考え方に触れ、内省をもたらず効果が期待できる。就職活動ではないが、学級経営について、教師が他者の実践を傾聴することにより、内省し気づきを得ることが報告されている(伊藤、2021)。また、臨床心理実習において被傾聴体験が良い聴き手になることを支援する報告があり、対話カードで話し手を経験した学生は良い聴き手になり得る(山田、2021)。就職活動生が聴き手になることにより、就職活動生同士で話し手・聴き手を繰り返すことで、就職活動に関する内省と聴く力の向上を得る好循環も期待できる。そこで2022年度研究では、就職活動生の内省を促すツールとして対話カードを就職活動生同士で利用できるよう改良し、その効果検証を行った。さらに、2023年度には対話カードの社会実装を目指し、研究を継続した。

## (2) 2023年度研究成果

# 研究概要

2022年度は就職活動生の内省を促すツールとして対話カードを就職活動生同士で利用できるよう改良し、効果検証を行った。これらを踏まえ、本年度、課題としたのは以下の通りである。

- ・就職活動時期の異なる就職活動生への効果検証
- ・行動カード、感情カードのデザインの改善
- ・就職活動生に対話カード継続利用を促す方法の検討
- ・社会実装に向けて具体的な方法の検討

上記の課題を解決するため、就職支援などで就職活動生と関わることの多い大学教員からの視点が参考になると考え、大学教員が就職活動生とどのように関わり、どのような問題を抱えているのかをリサーチするため、インタビューガイドを作成し2名のインタビューを行った。

### (3) インタビュー



# インタビューガイド

## 教員に活動支援をインタビューするためのガイドを作成した。

### 企画書

調査目的：就活支援に前向きな教員の現状と課題を理解する  
対象：ゼミを持っている、就活支援に前向きな、大学教員 2、3名  
調査課題：  
過去1年間の就活支援行動と感情  
大学から求められていること  
現在活用できるリソース  
就活支援に対して求めること・悩み

### インタビューガイド

- 自己紹介と調査の目的について(5分)
  - “私たちはXXXと申します。私たちは、就活生の内省を深めるプログラム開発研究を行っています。その一環として今回、大学教員の皆さんの現状と課題を理解することを目的に調査しています。本日は、先生が就活支援の一環としてどのような活動を行ってきたのか、またその過程で感じたことや考えたことを詳しくお聞きしたいと思っています。インタビューは約15時間を予定しています。”
  - “まず始めにお伺いしたいのですが、私たちがこのインタビューを録音することについて、許可をいただけますか？この録音は研究目的でのみ利用し、個人を特定できる情報は公にはされません。”
  - (インタビュー者個人の自己紹介)
- 被験者の背景情報(5分)
  - “さて、始めに先生のことをお聞かせいただけますか？特に、教員としてのご経歴や、ゼミの担当、そして就活支援についての経験について教えていただければと思います。”
  - (必要に応じて)
    - ゼミの頻度
    - ゼミの人数
- 過去1年間の就活支援に関する具体的な行動・事象(20分)
  - 過去一年間で行った就活支援の具体的な活動を、教えていただけますか？
    - (年間の活動を表に記載する)
    - (教員自身の行動と、その他の介入(キャリアセンターのセミナーがあった、などを行を分けて記録する))
  - 教えていただいた1年間の、先生自身の感情・エネルギーの変化を、主観で結構ですので、グラフにしてくださいませか

- (先生自身の感情・エネルギーの変化を、表を見ながらグラフ化する)
- (グラフ完成後、グラフが変化したポイントを中心に聞き取る)
  - この場所では感情がプラスに大きく動いていますが、これほどのような？

	1月	2月	-----12月
先生の行動	ゼミで就活に関する指導を行った	セミナーに動員した	
学校などの行動		キャリアセンターのセミナーがゼミの期間に開催された	
先生の感情・エネルギーグラフ +10 0 -10			

- 特に記憶に残っている出来事やエピソードはありますか？
- 大学から求められていること(10分)
    - 大学や学部から、就活支援について指示・期待・要求はありますか？具体的に教えて。
    - これらの期待や要求に対して、先生が感じることはありますか？
  - 現在活用できるリソース(10分)
    - 就活支援に利用している主なリソースは何ですか？(例えば、教材、オンラインツール、人的ネットワークなど)
    - これらのリソースをどのように活用していますか？
    - これらのリソースは十分だと感じますか？何か足りないと感じるものがあれば、具体的には何ですか？
  - 就活支援に対して求めること・悩み(10分)
    - 就活支援をする上で、具体的にどのような改善や支援を望んでいますか？
    - 就活支援に関して最も悩んでいる問題は何かですか？

- 締めめの言葉(5分)
  - インタビューのまとめと感謝の言葉
  - 追加の質問やコメントがあれば受け付ける

# インタビュー結果

インタビュー1: 2023年10月17日 国立大学Y先生 対面にて実施

インタビュー2: 2023年11月17日 私立大学S先生 オンラインにて実施

本年度は2件だけの実施となったが、就職支援に熱心に取り組んでいる大学・教員と、学生の自主性に任せている大学の対照的な意見が得られた。来年度もインタビューを続け、どのような事例において対話カードが有効に利用してもらえそうか検討していく。

## (4) 2024年度の展望

# 活動目的

社会実装に向けて、実際にカード普及のキープレイヤーである大学教員や大学キャリアセンターはどのような課題を抱えているのかを明らかにするという課題を踏まえ、対話カードに付随するマニュアル等を開発する。実際にカードが利用された際の効果を継続的に把握し、評価・改良を行える仕組みを作る。

## 【方法】

1. 大学教員・キャリアセンターの課題の深掘り(4～6月)

2023年度も一部実施済みであるが、大学教員・キャリアセンターの抱える課題を深掘りし、整理する。大学教員・キャリアセンターの中から、特に対話カードの使用が有効となる層、有用な利用シーンを特定する。

2. 大学教員・キャリアセンターに対するコミュニケーションデザイン(7～9月)

上記課題の深掘りを踏まえ、特に対話カードが有効となる層への効果的な働きかけ方の検討。マニュアル等のカードをより効果的に利用するために必要なものを整備。

3. 実戦による改良(10～3月)

実装に協力可能な大学教員・キャリアセンターと組んで、実際の就職活動での利用を開始、効果を確認する。

## 2. 2023年度の活動報告

- 株式会社パーソル総合研究所と契約
- 合同会社Dチーム設立
- 京都芸術大学紀要27号論文投稿

#### 【所感】

2023年度は、社会実装のための周辺準備に時間を割いた。合同会社設立に加え、株式会社パーソル総合研究所とは、対話を促すカードの効果を評価いただき、アレンジを加え、新入社員研修バージョンとして契約。展開の可能性を広げた。

# 謝辞

本研究に協力いただいた大学の先生方、就職活動生の皆様、株式会社パーソル総合研究所の木村様、会社設立にあたりお世話になった会計士高畠先生、研究室の指導教員である早川克美先生、浅井由剛先生に感謝の意を表します。ありがとうございました。

# 参考文献

- Korthagen, Fred AJ. "Reflective teaching and preservice teacher education in the Netherlands." *Journal of teacher education* 36.5 (1985): 11-15.
- 村上忠幸, and 向井大喜. "「深い学び」を実現するための探究学習とは (2)." 教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要 **Journal of Education Research Center for Educational Career Enhancement 1 (2019): 1-10.**
- 金子瞳, and 松本健義. "成人学習の視点からとらえる教師の学びと省察" 上越教育大学研究紀要 **40.2 (2021): 399-412.**
- 石黒香苗. "希望通りでない一般企業へ就職をした大学新卒者の主観的体験プロセス進路への納得に至るプロセスに着目して" *産業・組織心理学研究* **31.1 (2017): 55-67.**
- 高崎美佐, and 中原淳. "大学生の就職における情報探索が自己と仕事に関する認知変化に与える影響企業に関する情報収集の媒介効果に着目して" *日本労務学会全国大会研究報告論集日本労務学会編* **46. (2016): 27-34**
- 前田佐恵子, et al. "新卒時就職活動の失敗は挽回可能か?—家計研パネルの個票を用いた女性就業の実証分析" *ESRI ディスカッションペーパーシリーズ* **234 (2010)**
- 伊藤英希, (2021)、教職大学院授業における現職院生の学級経営についての省察、千葉大学教育学部研究紀要
- 山田美穂, (2021)、臨床心理実習授業における「被傾聴体験」をめぐる多声的検討 担当教員と受講生それぞれの振り返りを通して、就実大学大学院教育学研究科紀要
- 三國信夫, et al. (2021)、"就職活動生の内省を促す対話カードの開発" 日本教育工学会2022年秋季全国大会論文集